

ABSTRAK
**ANALISIS KEMAMPUAN MEMBACA DAN MENULIS
KANJI DOO'ON IGIGO PADA MAHASISWA SEMESTER 6**
DPBJ FPBS UPI
(Elizabeth Nova Rahayu, 2016, 88 halaman)

Penelitian ini bertujuan untuk mengetahui kemampuan mahasiswa semester 6 DPBJ FPBS UPI dalam membaca dan menulis kanji *doo'on igigo*. Metode yang digunakan dalam penelitian ini adalah metode deskriptif. Target penelitian ini adalah 14 orang, diperoleh nilai kemampuan membaca kanji *doo'on igigo* diperoleh rata-rata nilai *pretest* 33.6 dengan kategori nilai sangat buruk, namun diperoleh nilai rata-rata *posttest* 53.2 dengan kategori nilai kurang. Berdasarkan nilai kemampuan menulis kanji *doo'on igigo* diperoleh nilai rata-rata *pretest* 45.7 dengan kategori nilai buruk dan nilai *posttest* 69.3 dengan kategori nilai cukup. Walaupun nilai rata-rata nilai *posttest* dari kemampuan membaca dan menulis kanji *doo'on igigo* tersebut belum mencapai kategori baik, namun terjadi peningkatan nilai yang signifikan. Berdasarkan hasil analisis hal ini disebabkan karena mahasiswa kurang mengetahui mengenai kanji *doo'on igigo*, materi kanji *doo'on igigo* jarang dibahas di dalam perkuliahan, dan mahasiswa yang jarang berlatih secara mandiri. Selain itu faktor yang menyebabkan mahasiswa melakukan kesalahan dan mempengaruhi kemampuan dalam membaca dan menulis kanji *doo'on igigo* adalah mahasiswa yang tidak tahu arti dari kosakata yang dimaksud, tidak memahami konteks kalimat yang dimaksud, dan terdapat beberapa kanji *doo'on igigo* yang bentuknya mirip. Ada perbedaan nilai yang sangat signifikan berdasarkan JLPT yang dimiliki oleh setiap mahasiswa. Ada perbedaan nilai kemampuan menulis yang signifikan berdasarkan jumlah jam belajar. Namun tidak ada perbedaan nilai kemampuan membaca yang signifikan berdasarkan jumlah jam belajar kanji setiap mahasiswa.

Kata Kunci : kemampuan, membaca dan menulis, kanji doo'on igigo

ABSTRACT

ANALYSIS OF READING AND WRITING ABILITY OF KANJI DOO'ON IGIGO OF THE 6th SEMESTER STUDENTS DPBJ FPBS UPI

(Elizabeth Nova Rahayu, 2016, 88 pages)

This research aims to determine the ability of the 6th semester students DPBJ FPBS UPI in reading and writing of kanji do'on igigo. The method used in this research is descriptive method. Targeted research is 14 Japanese Education students of 6th semester in Indonesia University of Education. Based on the results of this research, it can be concluded that the average score result pretest of ability to read of kanji do'on igigo is 33.6, with the category is very bad score, and the average score result posttest of ability to read of kanji do'on igigo is 53.2 with the category is less score. The average score result pretest of ability to write of kanji do'on igigo is 45.7, with the category is bad score, and the average score result posttest of ability to write of kanji do'on igigo is 69.3, with the category is enough. Although the value of the average value of the posttest of the ability to read and write kanji igigo doo'on have not achieved good category, but there was a significant increase in value. Based on the analysis it is because students are not informed about doo'on igigo, material of doo'on igigo rarely discussed in the lecture, and students who rarely practice independently. In addition, factors that cause students to make mistakes and affects the ability to read and write kanji do'o'n igigo are students who do not know the meaning of the vocabulary in question, did not understand the context of the sentence in question, and there are some kanji doo'on igigo that looks similar. There are very significant differences in value based on the JLPT owned by each student. There are significant difference in value of ability to write based on the number of hours of student learning kanji. But there is no significant difference value of the ability to read based on the number of hours each student learning kanji.

Keywords: ability, reading and writing, doo'on igigo kanji

2014・2015年度インドネシア教育大学言語文学教育学部日本語
教育学科の三年生における同音異義語の漢字の読む書く能力分
析調査

(同音異義語漢字の使い分け)

エリザベス・ノファ・ラハユ

(学生番号：1106433)

要旨

漢字は非常に多くの数字だけではないが、同じ読み方が別の意味を持っている漢字「漢字同音異義語」もある。そこで、本研究では、インドネシア教育大学の日本語教育学科の三年生の大学生における漢字同音異義語の読む書く能力を明らかにする目的である。本研究ではデスククリップティブ方法を使う。本研究の対象者の数は 14 名の 2014・2015 年度インドネシア教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の三年生である。本研究結果に基づいて、同音異義語漢字を読む能力の事前テスト結果の平均点は 33.6 であり、点数のカテゴリは非常に悪い。同音異義語漢字を読む能力の事後テスト結果の平均点は 53.2 であり、点数のカテゴリは足りなくなった。同音異義語漢字を書く能力の事前テスト結果の平均点は 45.7 であり、点数のカテゴリは悪い。同音異義語漢字を書く能力の事後テスト結果の平均点は 69.3 であり、点数のカテゴリは十分になった。事前平均点と事後平均点によって有意差が見られる。分析した結果、対象者は同音異義語漢字のことについてはあまり分からない。半分以上の対象者は同音異義語漢字は難しいという意見があり、ほぼ対象者は同音異義語漢字は非常に難しいという意見をあげた。半分以上の対象者は授業の中で同音異義語の漢字はあまり説明していない、ほぼ対象者は授業の中で同音異義語の漢字を説明したことがないという意見が出た。更に、他の要因は対象者は言葉の意味は分からない、文章の意味も分からない。そして、同音異義語漢字は似いている形も多くあり、二つ漢字があるが、一つの漢字は同じ漢字がもっている同音異義語漢字もある。能力試験のレベルにより、学生の同音異義語漢字の読む書く能力の点数は有意差が認められた。授業以外で各学生の漢字の勉強時間により、学生の同音異義語漢字の書く能力の点数は有意差が認められた。しかし、授業以外で各学生の漢字の勉強時間により、学生の同音異義語漢字の読む能力の点数は有意差が認められなかった。

キーワード一：能力、読む書く、漢字同音異義語

Elizabeth Nova Rahayu, 2016

ANALISIS KEMAMPUAN MEMBACA DAN MENULIS KANJI DOO'ON IGIGO PADA MAHASISWA
SEMESTER 6 DPBJ FPBS UPI

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

Elizabeth Nova Rahayu, 2016

*ANALISIS KEMAMPUAN MEMBACA DAN MENULIS KANJI DOO'ON IGIGO PADA MAHASISWA
SEMESTER 6 DPBJ FPBS UPI*

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

1. はじめに

日本語を勉強している学生は平仮名、片仮名、ローマ字、漢字を習得する必要がある。漢字は日本語を勉強している学生のための困難な側面の一つである。それは、特に漢字文化の背景を持っていない学生「非漢字圏」が感じられる (Sudjianto & Ahmad, 2004, p.56)。したがって、漢字は日本語を勉強している学生にとって阻害する要因の一つである (Budiman, 2014, p.1)。

漢字は非常に多くの数字だけではないが、同じ読み方が別の意味を持っている漢字「漢字同音異義語」もある。勉強している時も、筆者が同じ問題がある。たとえば、「あつい」という言葉あるが、漢字の書き方が多い。それは a) 厚い b) 暑い c) 熱い d) 篤い である。国語辞典により、a) 厚い：表と裏とのへだたりが大きい、b) 暑い：気温が高い、熱い：温度が高い、篤い：病気が重いということが分かるが、文章を作る時、時々迷うことがあるではないだろう。

そこで、本研究では、インドネシア教育大学の日本語教育学科の三年生の大学生における漢字同音異義語の読む書く能力を明らかにする目的である。

1.1 同音異義語漢字について

同音異義語とは、発音は同じだが、互いに区別される語。他の例：

- a. 橋：川や道路などにかけ渡すはし
- b. 端：中心からいちばん遠い部分
- c. 箸：食べ物をはさむのに使うはし(国語辞典, 2005, p. 814)

そして、a) 取る：手で持つ。解釈すること、b) 採る：探して、集める。採用すること、c) 捕る：つかまえること, d) 執る：手に持って使

う、仕事をする、e) 摂る：写真などをうつす。（国語辞典, 2005, p. 746, dan 漢字でゼッタイ恥をかかない本, p. 78）

言葉が話されている場合、意味はアクセントや文章の文脈で区別することができるが、言葉が、その後仮名基づく現代の仮名遣いで書かれている場合には、前と後のコンテキストに基づいてされていない場合、意味が理解されていない。（Sudjianto & Ahmad, 2004, p. 114）

1.2 背景

筆者が知っている限り、漢字は特に同音異義語漢字は大変難しいと考えられる。あまり勉強しない大学生は困るかもしれない。文章を作る時や話し合い時も多分間違があるかもしれない。そのため、筆者は大学生の同音異義語漢字を読む書く能力について明らかにしたいと思う。

1.3 問題提起

大学生は様々な背景であり、漢字を勉強時間や日本語のレベルや能力などである。それに対して、同音異義語漢字を読む書く能力はどうなるかを知りたいと思う。大学生の同音異義語漢字の能力はどんな影響を与えるかも知りたいと思う。

1.4 先行研究

同音異義語漢字についての論文はあまりない。筆者は能力に関する論文を使う。

筆者 : Fadhilal Chusna

論文のタイトル : 2013・2014 年度 UNIKOM の日本語学科の二年生における漢字を読む書く能力エラ一分析

結果 :

漢字を書く能力のテスト結果の点数のカテゴリは低い。そして、漢字を読む能力のテスト結果の点数のカテゴリは非常に低いということが明らかになった。

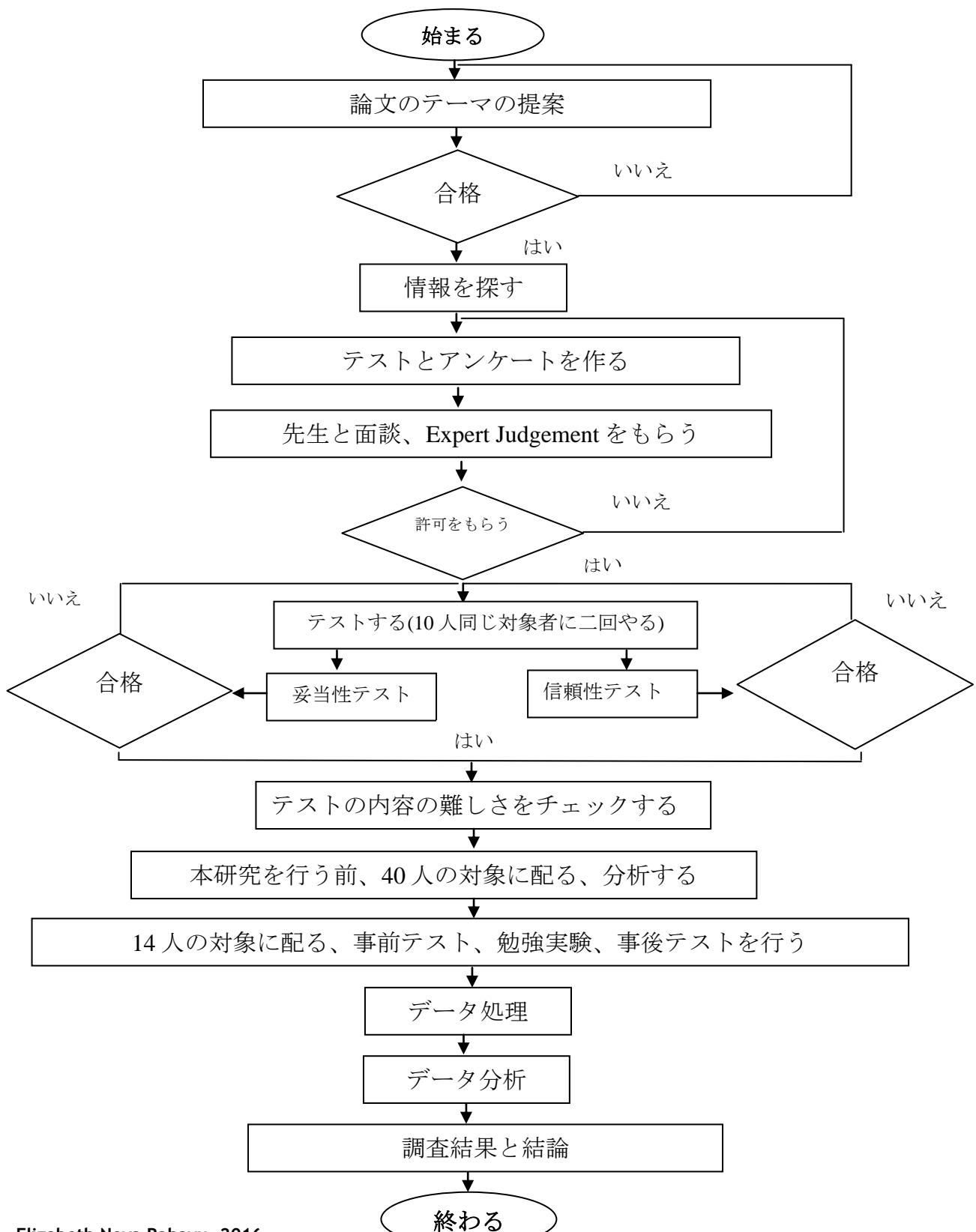
分析した結果、漢字を書いた時のエラーは漢字の落書きの量は当てないことであり、筆順は当てないことであり、漢字を書いた時完璧な漢字ではなかった。漢字を読んだ時、一番多いエラーは特に音読みであった。

2. 研究の方法

2.1. 研究目的と方法

本研究の目的は大学生における事前と事後の同音異義語の読む書く能力を明らかにすることである。そして、大学生は同音異義語についての意見を明らかにすることである。その後、テストの結果とアンケートの結果を比較し、理由や要因を探したいと思う。本研究の方法はデスクリップティブ方法である。Sutedi (2011,p.24) によると、デスクリップティブ方法と言うのはある実際的な問題を解決するための学術の経過の用法で現在起こっているある物事を述べ、描写する研究である。研究の手順は次のようである。

絵1 研究方法の流れ地図・フローチャート



テスト

- 1) テストのデータを計算する。公式は次のようにある。

$$X = \frac{ST}{SI} \times 100$$

公式の説明 :

X : 最後の点数

ST : 対象者に受ける得点

SI : 満点・全部の正しい答えの得点

- 2) 表を作り、テストの結果を書く。

- 3) 平均点を計算する。公式は次ぎのようである。

$$M = \frac{\sum X}{n}$$

公式の説明 :

M : 平均点

$\sum X$: 全ての対象の点数

n : 対象者の数

- 4) インドネシア教育大学の点数のカテゴリの基準により、そのテストの結果を書く。

表1 点数のカテゴリ・解釈の基準

(Septiany,2013,p.36)

点数	カテゴリ・解釈
86-100	非常に良い
76-85	良い
66-75	十分
56-65	足りない
46-55	非常に足りない
36-45	悪い

点数	カテゴリ・解釈
0-35	非常に悪い

アンケート

アンケートのデータを計算仕方と分析方法。公式は次のようにある

◦

$$P = \frac{f}{n} \times 100\%$$

公式の説明 :

P : 割合

f : 頻度の答え

n : 対象者の数

(Mardiyah,2014,p.69)

表2 アンケートの解釈の基準

(Septiany,2013,p.37)

パーセント	解釈
0%	いない
1-5%	ほとんどない
6-25%	一部いる
26-49%	半分以下
50%	半分
51-75%	半分以上
76-95%	かなり多い
96-99%	ほとんど全部
100%	全部

2.2. 調査概要

インドネシア教育大学の日本語教育学科のビルで 2015 年 5 月 11 日に実施した。先行研究があまり見つけなかったため、本研究を行う前に最初は日本語教育学科の 40 人の三年生に同音異義語漢字を読む書く能力のテストとアンケート調査を行った。そして、本研究の対象者は日本語教育学科の 14 人の三年生に事前テストと事後も行った。

2.3. 調査結果分析方法

本研究ではデスクリップティブ方法を使う。分析方法は t 検定、分散分析、である。使用ソフトは Statview5.0, Ms.Excel 2007 である。

2.4. 調査結果の分析と考察

2.4.1 日本語教育学科の 40 人の三年生に同音異義語漢字を読む書く能力のテストとアンケート分析結果

図 1 対象者の性別の割合

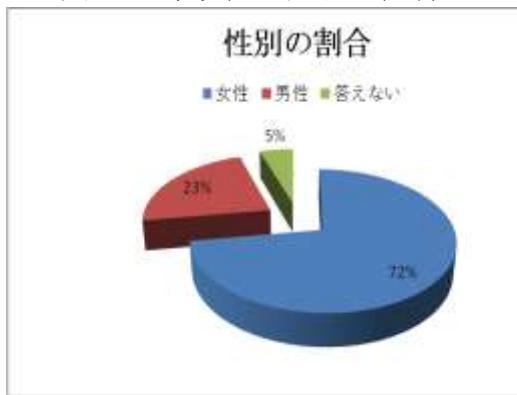
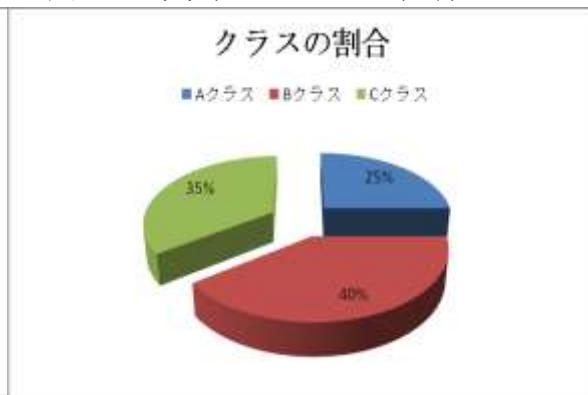


図 2 対象者のクラスの割合



対象は 40 名である。男性は 9 名、女性は 29 名である。A クラスから 10 名、B クラスから 16 名、C クラスから 14 名である。

テストの結果の分析

表 3 同音異義語漢字を読む能力のテスト結果

対象の番号	クラス	ポイント	満点	点数	カテゴリ
1	A	17.5	50	35	非常に悪い
2	A	25	50	50	非常に足りない
3	A	12.5	50	25	非常に悪い
4	A	12.5	50	25	非常に悪い
5	A	12.5	50	25	非常に悪い
6	A	10	50	20	非常に悪い
7	A	10	50	20	非常に悪い
8	A	25	50	50	非常に足りない
9	A	15	50	30	非常に悪い
10	A	20	50	40	非常に悪い
11	B	10	50	20	非常に悪い
12	B	10	50	20	非常に悪い
13	B	12.5	50	25	非常に悪い
14	B	15	50	30	非常に悪い
15	B	17.5	50	35	非常に悪い
16	B	17.5	50	35	非常に悪い
17	B	12.5	50	25	非常に悪い
18	B	27.5	50	55	非常に足りない
19	B	17.5	50	35	非常に悪い
20	B	42.5	50	85	良い
21	B	20	50	40	悪い
22	B	25	50	50	非常に足りない
23	B	27.5	50	55	非常に足りない
24	B	27.5	50	55	非常に足りない
25	B	12.5	50	25	非常に悪い
26	B	12.5	50	25	非常に悪い
27	C	2.5	50	5	非常に悪い
28	C	15	50	30	非常に悪い
29	C	12.5	50	25	非常に悪い
30	C	10	50	20	非常に悪い
31	C	20	50	40	悪い
32	C	10	50	20	非常に悪い
33	C	35	50	70	十分
34	C	30	50	60	足りない
35	C	20	50	40	悪い

対象の番号	クラス	ポイント	満点	点数	カテゴリ
36	C	0	50	0	非常に悪い
37	C	27.5	50	55	非常に足りない
38	C	25	50	50	非常に足りない
39	C	22.5	50	45	悪い
40	C	0	50	0	非常に悪い
点数の平均値		34.875			非常に悪い

表4 同音異義語漢字を読む能力のテスト結果のカテゴリ

カテゴリ	人数	パーセント
良い	1	2.5%
十分	1	3%
足りない	1	2.5%
非常に足りない	8	20%
悪い	4	10%
非常に悪い	25	63%
合計	40	100%

表3と表4に基づいて、たった 2.5% 対象者は良い点数のカテゴリを貰った。3% 対象者は十分点数のカテゴリを貰った。2.5% 対象者は足りない点数のカテゴリを貰った。20% 対象者は非常に足りない点数のカテゴリを貰った。10% 対象者は悪い点数のカテゴリを貰った。63% 対象者は非常に悪い点数のカテゴリを貰った。以上のことから、半分以上対象は非常に悪い点数のカテゴリを貰った。同音異義語漢字を読む能力の点数の平均値は 34.875 であった。

表5 同音異義語漢字を書く能力のテスト結果

対象の番号	クラス	ポイント	満点	点数	カテゴリ
1	A	20	50	40	悪い
2	A	25	50	50	非常に足りない
3	A	22.5	50	45	悪い
4	A	27.5	50	55	非常に足りない

対象の番号	クラス	ポイント	満点	点数	カテゴリ
5	A	25	50	50	非常に足りない
6	A	22.5	50	45	悪い
7	A	25	50	50	非常に足りない
8	A	25	50	50	非常に足りない
9	A	20	50	40	悪い
10	A	12.5	50	25	非常に悪い
11	B	25	50	50	非常に足りない
12	B	22.5	50	45	悪い
13	B	25	50	50	非常に足りない
14	B	25	50	50	非常に足りない
15	B	17.5	50	35	悪い
16	B	17.5	50	35	悪い
17	B	25	50	50	非常に足りない
18	B	35	50	70	十分
19	B	27.5	50	55	非常に足りない
20	B	37.5	50	75	十分
21	B	25	50	50	非常に足りない
22	B	25	50	50	非常に足りない
23	B	17.5	50	35	悪い
24	B	40	50	80	良い
25	B	20	50	40	悪い
26	B	20	50	40	悪い
27	C	15	50	30	非常に悪い
28	C	22.5	50	45	非常に足りない
29	C	15	50	30	非常に悪い
30	C	30	50	60	足りない
31	C	20	50	40	悪い
32	C	15	50	30	非常に悪い
33	C	42.5	50	85	良い
34	C	27.5	50	55	非常に足りない
35	C	15	50	30	非常に悪い
36	C	2.5	50	5	非常に悪い
37	C	20	50	40	悪い
38	C	20	50	40	悪い

対象の番号	クラス	ポイント	満点	点数	カテゴリ
39	C	25	50	50	非常に足りない
40	C	42.5	50	85	良い
点数の 平均値	47.125				非常に足りない

表 6 同音異義語漢字を書く能力のテスト結果のカテゴリ

カテゴリ	人数	パーセント
良い	3	7.5%
十分	2	5%
足りない	1	2.5%
非常に足りない	15	37.5%
悪い	13	32.5%
非常に悪い	6	15%
合計	40	100%

表 5 と表 6 に基づいて、7.5% 対象者は良い点数のカテゴリを貰った。5% 対象者は十分点数のカテゴリを貰った。2.5% 対象者は足りない点数のカテゴリを貰った。37.5% 対象者は非常に足りない点数のカテゴリを貰った。32.5% 対象者は悪い点数のカテゴリを貰った。15% 対象者は非常に悪い点数のカテゴリを貰った。以上のことから、ほぼ対象は非常に足りない点数のカテゴリを貰った。同音異義語漢字を読む能力の点数の平均値は 47.125 であった。

表 7 日本語能力試験レベルにより分析結果

	1 N2 平均値 (SD)	2 N3 平均値 (SD)	3 N4 平均値 (SD)	4 合格しない 平均値 (SD)	F	P 値
読む能力点数 1>4, 1>3	51.25 (33.51)	41.364 (29.286)	29.286 (13.567)	29.545 (11.501)	2.653	0.0633
書く能力点数 1>4, 1>2, 1>3	60.00 (22.73)	54.545 (15.725)	42.50 (15.159)	40.909 (9.700)	3.008	0.0428*

分析方法：分散分析 (* : p < .05 ; ** : p < .01 ; *** : p < .001 ; n.s : 非有意) 多重比較検定 : Fisher PLSD

表 7 にみると、分散分析方法で日本語能力試験レベルにより学生の読む能力の点数を分析した結果、有意傾向がある。 (p=0.0633)

Elizabeth Nova Rahayu, 2016

ANALISIS KEMAMPUAN MEMBACA DAN MENULIS KANJI DOO'ON IGIGO PADA MAHASISWA SEMESTER 6 DPBJ FPBS UPI

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

。しかし、日本語能力試験レベルにより学生の書く能力の点数を分析した結果、有意差が認められる。 $(p=0.0428^*)$ すなわち、書く能力の点数は他の学生より日本語能力試験レベル N2 を持っている学生の方が高いということが分かった。

2.4.2 事前テストと事後テスト分析結果

表8 同音異義語漢字の読む能力の事前テストの平均点と事後テストの平均の比較

No.	X	Y	d	d^2
1	20	50	30	900
2	20	35	15	225
3	15	90	75	5625
4	30	50	20	400
5	30	20	10	100
6	45	60	15	225
7	30	50	20	400
8	35	30	15	225
9	25	40	15	225
10	30	55	25	625
11	35	60	25	625
12	40	45	5	25
13	40	75	30	900
14	75	85	10	100
Σ	470	745	310	10600
M	33.6	53.2	22.14286	

説明:

X = 事前テストのポイント

Y = 事後テストのポイント

d = 事前と事後ポイントの差

Elizabeth Nova Rahayu, 2016

ANALISIS KEMAMPUAN MEMBACA DAN MENULIS KANJI DOO'ON IGIGO PADA MAHASISWA SEMESTER 6 DPBJ FPBS UPI

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

Σ =合計

M =平均点

二次偏差値

$$\begin{aligned}\sum x^2 d &= \sum d^2 - \frac{(\sum d)^2}{N} \\ &= 10600 - \frac{(310)^2}{14} \\ &= 10600 - 6864.29 \\ &= 3735.71\end{aligned}$$

t 得点を計算する方式

$$\begin{aligned}&= \frac{Md}{\sqrt{\frac{\sum x^2 d}{N(N-1)}}} \\ &= \frac{22.14}{\sqrt{\frac{3735.71}{14(14-1)}}} \\ &= \frac{22.14}{4.5} \\ &= 4.9\end{aligned}$$

説明 :

t 得点は 4.9 であり、($db = 13$) t 得点 $4.9 > t$ 表 ($5\% = 2.16$)、($1\% = 2.68$) ということが分かる。t 表より t 得点は高く、Hk が受けられる。つまり、事前テストの平均点と事後テストの平均点の比較によって、有意差が見られ

る。行ったクラスでの勉強実験は同音異義語漢字の読む能力を上達できるということが分かった。

表8 同音異義語漢字の書く能力の事前テストの平均点と事後テストの平均の比較

No.	X	Y	d	d^2
1	30	60	30	900
2	35	75	40	1600
3	45	85	40	1600
4	40	80	40	1600
5	35	45	10	100
6	25	50	25	625
7	45	65	20	400
8	40	50	10	100
9	50	90	40	1600
10	50	85	35	1225
11	50	80	30	900
12	50	50	0	0
13	75	80	5	25
14	70	75	5	25
Σ	640	970	330	10700
M	45.7	69.3	23.57143	

説明:

X=事前テストのポイント

Y=事後テストのポイント

d=事前と事後ポイントの差

Σ =合計

二次偏差値

Elizabeth Nova Rahayu, 2016

ANALISIS KEMAMPUAN MEMBACA DAN MENULIS KANJI DOO'ON IGIGO PADA MAHASISWA SEMESTER 6 DPBJ FPBS UPI

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

$$\begin{aligned}
 \sum x^2 d &= \sum d^2 - \frac{(\sum d)^2}{N} \\
 &= 10700 - \frac{(330)^2}{14} \\
 &= 10700 - 7778.58 \\
 &= 2921.429
 \end{aligned}$$

t 得点を計算する方式

$$\begin{aligned}
 &= \frac{Md}{\sqrt{\frac{\sum x^2 d}{N(N-1)}}} \\
 &= \frac{23.6}{\sqrt{\frac{2921.429}{14(14-1)}}} \\
 &= \frac{23.6}{4} \\
 &= 5.9
 \end{aligned}$$

説明 :

t 得点は 4.9 であり、(db = 13) t 得点 5.9 > t 表 (5% = 2,16)、(1% = 2,68) ということが分かる。t 表より t 得点は高く、Hk が受けられる。つまり、事前テストの平均点と事後テストの平均点の比較によって、有意差が見られる。行ったクラスでの勉強実験は同音異義語漢字の書く能力を上達できるということが分かった。

3 結び

3.1.まとめ

本研究結果に基づいて、同音異義語漢字を読む能力の事前テスト結果の平均点は 33.6 であり、点数のカテゴリは非常に悪い。同音異義語漢字を読む能力の事後テスト結果の平均点は 53.2 であり、点数の

カテゴリは足りなくなった。同音異義語漢字を書く能力の事前テスト結果の平均点は 45.7 であり、点数のカテゴリは悪い。同音異義語漢字を書く能力の事後テスト結果の平均点は 69.3 であり、点数のカテゴリは十分になった。事前平均点と事後平均点によって有意差が見られる。

分析した結果、50%回答者は同音異義語漢字のことについてはあまり分からない。半分以上の回答者は同音異義語漢字は難しいという意見があり、ほぼ回答者も同音異義語漢字は非常に難しいという意見をあげた。半分以上の対象者は授業の中で同音異義語の漢字はあまり説明していない。ほぼ対象者は授業の中で同音異義語の漢字を説明したことがないという意見が出た。能力試験のレベルにより、学生の同音異義語漢字の読む書く能力の点数は有意差が認められる。しかし、授業以外で各学生の漢字の勉強時間により、学生の同音異義語漢字の読む能力の点数は有意差が認められない。

そして、要因は大学生はその言葉の意味は分からず、文章の意味も分からず。同音異義語漢字は似いでいる形も多くあり、二つ漢字があるが、一つの漢字は同じ漢字をもっている同音異義語漢字もある。例えば じしん 「自身・自信」、きかい 「機会・機械」、いどう 「異同・異動」である。そのことより、大学生は漢字を選んだ時、迷うことがあり、間違えてしまった。

その要因を解決するために、様々な方法がある。先生として、漢字を教える時、多くの同音異義語漢字の素材を用いたほうが良い。同音異義語漢字の例を説明し、意味と使い分けも説明した方が良い。大学生として、多くの参考で、例えば同音異義語漢字に関する本や教科書や新聞やインターネット等から多くの漢字を読み、言葉の意味や知識も更に広がるようになり、同音異義語漢字の使い分けも分かるようになる。そして、自分で漢字を書くと読む練習をした方が良い。

3.2. 今後の課題

本研究は大学生の同音異義語の漢字の読む書く能力の点数と要因を明らかになった。しかし、同音異義語の漢字の勉強仕方や良い方法はまだ検討しない。次の研究は同音異義語の漢字の勉強方法を検討したいと思う。どんな方法が良いかを検討したいと思う。

3.3. 参考文献

- 浜田麻里、平尾得子、由井紀久子（2015）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版
- コンデックス情報研究所.(2009)『漢字でゼッタイ恥をかかない本』日本: (株) KMS
- Budiman, D. (2014) 『Efektifitas pembelajaran kanji dengan menggunakan winds pro emulator game nazotte oboeru. (論文)』 Bandung:Fakultas Pendidikan Bahasa dan Seni, Universitas Pendidikan Indonesia
- Chusna,F.(2014)『Analisis Kesalahan Mahasiswa Dalam Menulis dan Membaca Kanji (Studi Kasus Terhadap Mahasiswa Tingkat II Program Studi Sastra Jepang Fakultas Sastra UNIKOM Tahun Akademik 2013/2014. (論文)』 Bandung:Fakultas Sastra, UNIKOM,
- Gakken.(2001)『学研現代標準国語辞典』日本:株式会社学研教育出版
- Mardiyah, P. (2014).『Analisis kemampuan mahasiswa tingkat III dalam memahami giongo dan gitaiigo dalam manga super mario jilid 21. (論文)』 Bandung:Fakultas Pendidikan Bahasa dan Seni, Universitas Pendidikan Indonesia
- Nanzan University.(t.t)『論文を読むために必要な統計知識』
<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/~urakami/pdf/vol1.pdf>[参照 2016 年 5 月 25 日]
- Nelson,A(2005)『Kamus Kanji Modern Jepang-Indonesia』
Jakarta:Kesaint Blanc
- Septiany,N.G.(2013) 『Analisis Tingkat Pemahaman Mahasiswa Terhadap Penggunaan Fukushi Kitto dan Kanarazu 』 Bandung:UPI

Sudjianto & Ahmad, D. (2004) *『Pengantar linguistik Bahasa Jepang.』*
Jakarta : Kesaint Blanc.

Sutedi,D.(2011) *『Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang: Panduan bagi Guru dan Calon Guru dalam Meneliti Bahasa Jepang dan Pengajarannya』* Bandung:UPI Press dan Humaniora Utama Press

Universitas Pendidikan Indonesia. (2014) *『Pedoman Penulisan Karya Ilmiah UPI Tahun Akademik 2014/2015』* Bandung: Universitas Pendidikan Indonesia